

延段通路の点景の了例

使い方はアイデア次第！

飛石の通路と異なり延段通路は歩き易いのが利点です。

延段は通常茶席の露地に造られ、山居の風情を目的とします。茶室同様よくお寺や神社の通路としても良く造られます。

今回も、お寺の園路として造られたものが二例。

あと一例は、個人邸で、コンクリート平板の飛石から延べ段への改作です。自然石で造られた、延段通路は庭の樹木や草花との相性もピツタリで、人工でありながら、人工らしからぬ自然の雰囲気を出した良い事例の見本ではないでしょうか。



(有)林庭園設計事務所

〒193-0823 東京都

八王子市横川町 1096-3

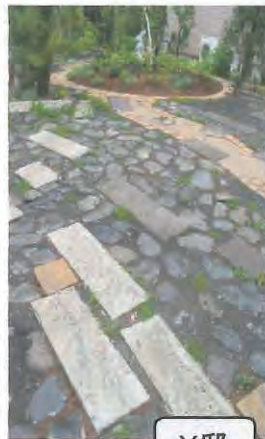
TEL:042-622-8840

VOL.16

この様に、お寺や神社だけでなく、これからは、一般家庭の庭にも、多く造られていくと思われる、先例であってほしい。

例えば、カーポートは一般にもっとも景観を工夫したい玄関先に作られますが、コンクリートの殺風景な場所になっています。この延段とタイヤの踏みつけないスペースに地被類等の花壇で、彩ってみては……！

H邸



Y邸



六月にもなると、路傍のあちこちに、ホタルブクロが普通に見られる。このホタルブクロの名は、「牧野新日本植物図鑑」や田舎の古老も、昆虫の蛸を包む花がら、その名が付いたのだという説だ！

はたしてそうなのだろうか？

平家蛸はそうとしても源蛸はかなり大きくて、この花には納まらない。野坂昭如の自伝的小説でアニメにもなった「火垂るの墓」という作品がある。

ホタルブクロは、「火垂る袋」であり、すなわちチョウチン(提燈)であるという説が、私には納得がいくのです。

また、花の姿から「穂垂る袋」という別説もある。

ホタルブクロの方言に、ズバリ、チョウチンバナやアンドンバナの名もあるそうだ。いずれにしても、蛸とは関係なさそうだ。



前号で、人間が進化の頂点であるという妄想は捨てるべきだと書いたが、いやいやこれも改めるべきである。

この前、読んだ科学雑誌によると、植物の重要な構成物質である

葉緑素の化学元素の一つを変えると、なんとヘモグロビンになるそうだ。ヘモグロビンといえば赤血球であり、人間の血そのものといって良い。人の世界では、血筋だの血統だのと、血への想いは、もはや神話同様である。

その言を借りれば、植物は人類の先輩であり、親と言って良い。

かくも偉大なる先祖に対して、近頃人間たちは、いささか傲慢過ぎやしませんか？

花が散ると、汚いとか、葉が落ちると迷惑だとかの理由で、何百年という刻を経た木を、切り倒すなぞは一考の要すところだ。

たしかに、毎日毎日、落葉の掃除となれば大変であるし、相続税の事を考えれば親の財産を分割し、その際、遺された大木も切らねばならないでしょう。

しかし、皆で緑地を残す相続税の有り方や、イベントとして落葉掃除に取り組むなど、いまこそ人間の智慧の絞りどきでは……。